

学校概要

| | | | | |
|----------------------|-----------|-------------------------|----------|--------------|
| 創立 40 周年 | 学校長 昆 しのぶ | 副校長 粟飯原 桂子 | 学期 2 学期制 | 児童・生徒数 660 人 |
| 学級数 一般級: 19 個別支援級: 4 | | 主な関係校: 北綱島特別支援学校・日吉台中学校 | | |

学校教育目標

心をあわせ あかるくのびる 北綱の子

- ・自ら問題を発見し、解決することができる子を育てます(知)
- ・自分も友達も大切に、思いやりのある心をもつ子を育てます(徳)
- ・心と身体をきたえ、安全への知識と態度を身につけ、自分や人の生命と身体を大切にすることを育てます(体)
- ・北綱島のまちに学び、まちに生きる子を育てます(公)
- ・様々な社会の変化に対応し、未来をひらく子を育てます(開)

学校の特徴

学区の「北綱島」は古くからの旧地名であり、綱島北部の耕作地帯の低地であったが、東京への地の利から、戦後住宅地として急速に発展し、人口が増大。昭和53年に本校は開校した。以来、地域、保護者の理解と協力を受けて発展してきた。平成21年度からは、学校、家庭、地域の連携を一層重視し、学校運営協議会を設置している。平成23年度からは、震災の反省から、防災教育に取組み、学校、家庭、地域で連携する防災の取組みに力を入れている。生活科、「横浜の時間」を中心とした防災教育にも重点的に取り組んでおり、実践を進めている。また、学力向上のためには、基礎基本の力を身に付ける学習と共に問題解決の学習も重要であると考え、単元開発や授業改善を推し進めて、成果を上げつつある。さらに、本校に隣接している北綱島特別支援学校との交流による「思いやりの心」を基にした教育も積極的に進めている。

学校経営中期取組目標

学校教育目標を実現するために、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。

- ・各教科での基礎基本の力を身につけるとともに、豊かな体験や、自ら問題意識をもって取り組む学習を展開し、思考力、判断力、表現力などを育てるための教育活動を推進します。
- ・「思いやりの心」を培い、自他の人権を守る力を育てるための人権教育の充実を図ります。
- ・学校、家庭、地域の連携のもとに、災害を中心とした様々な危険から身を守る防災教育の充実を図ります。
- ・学校運営協議会などを通して、学校、家庭、地域での共通理解を図り、地域に開かれた学校づくりを推進します。
- ・小中一貫教育推進ブロックでの取組を推進し、一貫性のある児童の育成を推進します。

小中一貫教育の取組

| | | |
|-------------|---|-------------------------------------|
| 日吉台中 | ブロック | : 日吉台中学校・日吉台小学校・日吉南小学校・矢上小学校・北綱島小学校 |
| 9年間で育てる子ども像 | ブロック内小中学校9年間の連続性のある教育の推進 ～生活及び学習指導のスタンダードの共有による、一貫性のある児童生徒の育成を目指して～ | |
| 自校の具体的取組 | 低学年で生活と学習の基礎基本を身につけ、中学年で個性の伸長と集団としての基礎基本を身につけ、高学年でそれを高めるなど、中学校生活につながる育成過程を見通して教育する。 | |

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|---------|---|---|
| 確かな学力 | ・学習環境を整え、学習習慣を身につけ、各教科での基礎基本を身に付ける。 ・体験的な学習や「横浜の時間」の展開により、問題解決力を高める。 ・多様な学習において、学校司書と連携し、情報活用能力を高める。 | ・各教科等において、「話し方系統表」「言葉のたから箱」等を活用した対話や話し合い、説明や解説等の言語活動を位置づけ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。 ・重点研究を核に、各教科等におけるESDの実現に向けて、より一層豊かな体験や人とのかかわりを重視した学習を行う。 ・パソコンルームを整備することで、児童がICTを活用してより主体的で探究的な学習ができるようにする。 |
| 豊かな心 | ・「思いやりの心」を基にして、道徳の時間で深く考えたり、友だち、年少者などと交流をしたりして、道徳的判断力と実践力を育てる。 ・音楽などの情操教育、自然との触れ合い、人との交流などを通して、感性豊かな心を育む。 ・豊かな心の育成とともに、特別支援学校隣接校ならではの障害理解教育を推進する。 | ・道徳では、昨年度見直した年間指導計画のもとに、教科書を使用して授業を充実させ、道徳的価値を十分に味わえるようにする。 ・低学年から、音楽専科がいろいろな場面で関わることや、全校で「今月の歌」や音楽朝会に取り組むことを継続し、表現を楽しみ心豊かに生活できるようにする。 ・特別支援学校との交流を深めるために、ミニ集会活動に招待する等、日常活動を生かした新しい取り組みを探る。 |
| 健やかな体 | ・食育や健康に関する取組を通して健康と安全への正しい理解や健康的な生活への実践力を育てる。 ・様々な機会を通して外での遊びを励行し、体育的行事や特別活動との関連で運動に親しみ、体力の向上を図る。 | ・実情に応じて「きたつなハンドブック」の見直しを行い、共通理解をもって指導に役立てるようにする。 ・全校や学年、クラスでの集会、運動委員会の企画などを通して運動に親しみながら、友達との交流を深められるようにする。 ・握力の向上を図るために、固定施設遊びの推奨、ハンドグリップの活用などの他、日常生活も意識し、様々な運動ができる機会をつくる。 |
| 地域連携 | ・学校運営協議会を通して、地域、家庭との連携を強化し、共に防災教育や地域の教育力を活用した学習活動を充実させ、地域に開かれた学校づくりを推進する。 | ・地域とのつながりを更に深められるように、学習の中でふれあう場面を意図的、計画的に取り入れることを継続する。 ・創立40周年の記念事業に、児童、地域、保護者、教職員が連携して取り組む。 ・北綱ほっこりサポーターの方々を朝会時に紹介したり、活動を学校便りに意識的に取り上げたりし、児童や保護者の認識度を高め、より一層連携を進める。 |
| 安全防災教育 | ・在校時間帯の災害に適切な対応ができる体制作りと、訓練の質の向上を図る。 ・学校、家庭、地域の連携のもと、「きたつな防災プラン」をPDCAサイクルで見直し、様々な危険から身を守る防災教育の充実を図る。 | ・学校総合防災訓練では、放送が使えない想定で保護者も一緒に訓練に取り組み、その後の避難訓練や万が一の場合に生かせるようにする。 ・縦割り活動時間、朝会の時間等、更に新しい想定で避難訓練を行う。 ・「きたつな安全防災プラン」を国語を切り口に見直し、どの学年も資質・能力を育む学習を展開する。 |
| 特別支援教育 | ・様々な課題のある子に対して、医療、他機関とも連携して迅速的確に支援体制を構築し、PDCAサイクルで、よりよい支援体制を整備する。 | ・児童支援専任との連絡を密にし、問題を抱える児童の支援の流れをより明確にして、チームとしての対応力を強化する。 ・個別的教育支援計画を活用し、校内だけでなく保護者や関係機関と連携し、的確な教育的支援を行う。 ・打ち合わせや職員会議での児童指導報告を継続し、即時性をもって全教職員で児童理解と迅速な支援を行う。 |
| いじめへの対応 | ・児童間の問題を解決していく力を育て、人権意識の向上といじめ防止を着実に図る。 | ・「先生、あのねタイム」やいじめ調査アンケートで、いじめの防止、早期発見、早期解決につなげる。 ・いじめの定義の理解や未然防止の研修を計画的に行い、全教職員が共通認識をもてるようにする。 ・「北綱島小学校いじめ防止基本方針」を学校説明会や学校運営協議会等で周知し、保護者はパートナーという基本認識に立ち、保護者、地域、他機関と連携していく。 |

| | | |
|-----------|--|---|
| 人材育成・組織運営 | ・重点、学年、メンター研究会や研修会などを通して、児童観、学習観、評価観などを共有し合い、指導力の向上を図る。 ・主幹教諭を柱にした組織運営をPDCAサイクルで改善しながら、効果的・効率的な運営を行う。 | ・新学習指導要領に関する情報共有、校内研修会の開催を積極的に行う。 ・主幹教諭を個別級を含めた低中高ブロックの指導助言者としてづけ、様々な課題の早期発見、解決への組織力を高めるとともに、メンターチームへの指導助言も積極的にを行い、人材育成にあたるようにする。 ・40周年事業を推進する中で、全教職員の組織力や企画・運営力を高めていく。 |
| 担当 | 教務 | |

